

# ひろし新聞 146号



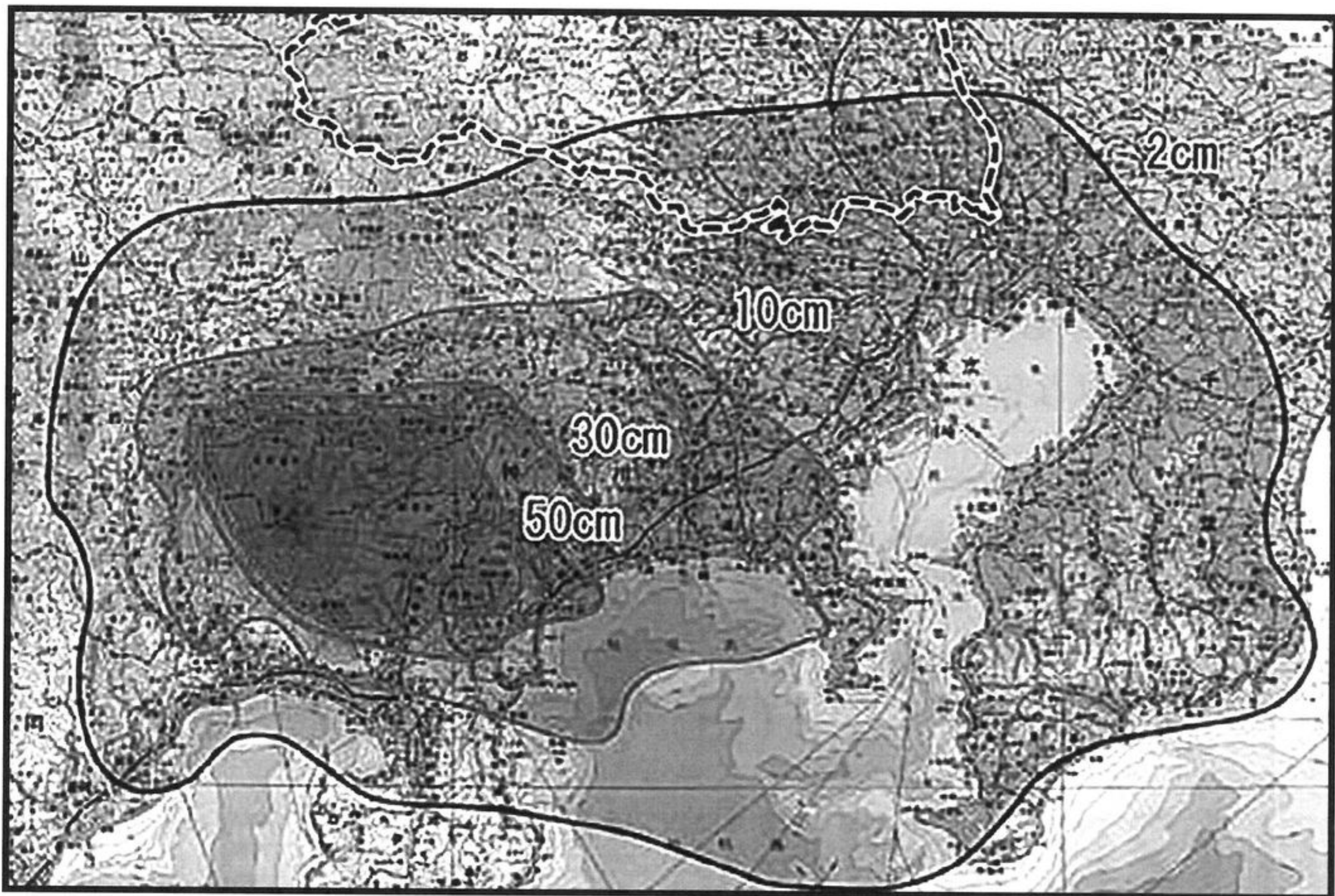
2015年7月3日速報版 発行者：県議会議員 中川 浩 (48歳)

『家庭で』編

## 富士山が噴火したら埼玉県内に

## 2～10cmの火山灰が降る可能性も

埼玉県防災計画より(富士山火山防災協議会『富士山火山防災マップ』)点線が埼玉県



火山学者によれば、日本でこの100年間、大きな火山災害が無いのは歴史上、珍しいとの事です。そんな中、一昨年(2014年)の西之島の噴火以降、国内でも火山活動が活発になり、御嶽山が噴火、浅間山・箱根山は小規模に噴火しています。しかし私達市民がどうすればいいか、あまり情報が提供されていません。江戸時代の天明の飢饉は、浅間山などの噴火の降灰による田畑の被害により、起きました。最近でも、1993年(平成5年)フィリピン・ピナツボ山の噴火の影響で、日本は冷夏、米不足になり、『タイ米騒動』が起きました。今後、大規模な火山噴火が国内であった場合、食料が不足する事が予想されます。

東日本大震災では、食料品の生産が止まった訳ではなかったのに、スーパーやコンビニから食料品・生活必需品が無くなりました。



# 火山災害などに備え、 家庭での食料備蓄を

日頃、食料・生活必需品を、各家庭が備えていない中、災害が起きてから、多めに買うと、間違いなく商品は不足します。火山災害は、地震災害と違い、災害が長期化し、インフラのダメージも長期化します。火山噴火・首都直下地震などに備え、各家庭で食料・生活必需品の備蓄をしましょう。具体的には、何と言っても『**お米をもう1袋**』。各家庭によって普段買う量は違いますが、もう1袋（出来れば10kg）買って、使いながら買い足せば、ムダにならないので、おすすめします！ 乾パンなど非常食は、備えた気になりますが、かさばるわりには量が多くなく、すぐ食べきってしまいますし、日頃食べない物は、備えが長続きしません。米は重いですが、日持ちしますし、欠かせない主食です。

災害は形を変え、私達の予想を超えて、襲って来ます。普段の生活の中で、いま災害が起きたらどうするか。ご家族・ご自身で、ぜひお考え下さい（「大地震があったら、電話も通じず、都内から帰れないので、会社に泊まるから安心して」「うちの避難場所は、〇〇中学校だから、そこに避難しているね」など）。

次の災害は、明日かも知れません。どうか、今日さっそく行動をお願いします。（すぐ行動しないと、やらなければならない事を忘れてしまいますよね）

## 『東山とおる』さんを応援しています

《街頭演説》 5日(日)午前10時～ マルエツ前

## 7月12日は市長選挙の投票日です

期日前投票は、月曜日から市役所で。投票券が無くても。

## 有料橋の無料化を求める署名実施中

署名を少しでも集めて下さる方も募集しております。

ご意見・ご相談はこちらへ 県議会 無所属改革の会 県議会議員 **中川ひろし**  
電話 090-3310-9234 hnkgw@nifty.com kids-dream@docomo.ne.jp  
FAX 2936-8834 (事務所) 狭山市中央4-25-4 (マルエツの通り。高柳会計さんの向かい。選挙に関係なく常設)